

NISSAN ART AWARD 2015

関連イベント

1. ファイナリスト7名によるアーティスト・トーク

ファイナリストが自身の作品や今回の展示について語ります。

11月14日(土) 15:00-16:30 岩崎貴宏、久門剛史、毛利悠子

11月21日(土) 15:00-16:00 秋山さやか、石田尚志

11月22日(日) 15:00-16:00 米田知子、ミヤギフトシ

会場: 2F ライブラリー

定員: 各回40名 *要予約

2. グランプリ・アーティストによるトーク

グランプリ受賞者が出展作品や今後の制作に関する展望について語ります。

11月28日(土) 11:30-12:30

ゲスト: 飯田志保子(キュレーター / 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授)

会場: 1F カフェスペース

定員: 40名 *要予約

3. ギャラリーガイドツアー

展覧会スタッフが、展示室内でツアー形式のトークを行います。

11月14日(土)、21日(土)、28日(土)

12月 5日(土)、12日(土)、19日(土)、26日(土) 各回13:00-13:45

定員: 各回20名

申込: 不要(先着順) 当日2Fギャラリー入口にお集まりください。

※全て日本語のみ

※参加無料

※出演者、スケジュールは諸般の事情で予告無く変更する場合があります。

※申し込み・詳細は、「日産アートアワード」公式サイトの展覧会・イベントページをご覧ください。

または、本展受付のスタッフまでお声掛けください。

オーディエンス賞

11月14日から11月23日までの間、オーディエンス賞の投票箱を設置します。

最も印象に残ったファイナリストに一票を投じてください。

グランプリ受賞者とオーディエンス賞は、11月25日に「日産アートアワード」公式サイトにて発表します。

公式サイト www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/NAA/

Facebook www.facebook.com/NissanArtAward

Twitter twitter.com/NissanArtAward

日産アートアワード 2015 ファイナリスト7名による新作展

2015年11月14日(土)ー12月27日(日) BankART Studio NYK 2F

主 催	日産自動車株式会社
企画・運営協力	NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト]
協 力	カムデン・アーツ・センター
展覧会協力	BankART1929、エプソン販売株式会社、ライトアンドリヒト株式会社
展覧会後援	横浜市

日産アートアワードについて

日産アートアワードは、隔年で開催される現代美術のアワードで、日本人アーティストの国内外での活躍をサポートし、次世代へと続く日本の文化発展に貢献することを目的に、2013年にスタートしました。年齢を問わず、現代社会を瑞々しい感性で鋭く見抜き、特に過去2年間の活躍が目覚ましかったアーティストに贈られます。

会期中には、国際審査委員会による最終審査が行われ、グランプリ受賞者1名が決定します。グランプリ受賞者には賞金に加えて、今回からの新たな取り組みとして、ロンドンの歴史あるアートセンター「カムデン・アーツ・センター」で、2ヶ月間にわたるロンドン滞在の機会を提供し、さらなる飛躍の契機を創出します。また、来場者の投票により選出されるオーディエンス賞も設立。より多くの人々に参加いただくことで、ファイナリストの活動を応援します。

展示作品リスト

それぞれの項目は、アーティスト名、作品番号、タイトル、制作年、素材・技法、サイズ、所蔵先の順に記しています。
所蔵先の表記がないものは、作家蔵となります。

1 米田 知子 Tomoko Yoneda

歴史や場所の丁寧なリサーチを通して、写真の根本的な役割である「記録」を軸に、現実に見えているものだけではなく、そこに潜む記憶を背景に投影しています。本展で米田は、特に第二次世界大戦の歴史にまつわる風景、人物、物をリサーチし、イギリス、韓国、日本にて、B-29 の墜落現場、朝鮮半島の南北分断の軍事境界線地域、戦争記録画を描き戦後に糾弾された藤田嗣治をモチーフとした新作の撮影を行いました。それらに加え、靖国神社や広島などから構想を得た旧作と一緒に並べることで、さまざまな歴史的断片から、過去といまを見つめ直すシリーズへと発展させました。今後の活動として、今年 12 月から始まる「ふぞろいなハーモニー」展（広島市現代美術館）のほか、2016 年は、台湾關渡美術館での展覧会、また、「REAL DMZ」展（Art Sonje Center、韓国）に参加予定です。

絡まった有刺鉄線と花（非武装地帯近く・ユゴリ統一村・チョルウォン・韓国）（「DMZ」シリーズより） 2015 発売現像方式印画／650 × 830 mm	境界線の向こうに絡まる二本の松（北朝鮮と韓国の北東最前線・ゴセオン・韓国）（「DMZ」シリーズより） 2015 発売現像方式印画／830 × 650 mm	桜 ― 靖国神社、東京（「Scene」シリーズより） 2006 発売現像方式印画／760 × 960 mm
記憶と不確実さの彼方（イラク空爆より帰ってきた米B-52爆撃機/フェアフォード・イギリス） 2003 発売現像方式印画／各540 × 700 mm（三連作） 国際交流基金所蔵 広島市現代美術館寄託	日本統治時代の氷蔵の壁にある砲弾痕（朝鮮戦争の激戦地チョルウォン・非武装地帯近く・韓国）（「DMZ」シリーズより） 2015 発売現像方式印画／650 × 830 mm	サダコの折り鶴・広島（「積雲」シリーズより） 2011 発売現像方式印画／830 × 650 mm
ビキニ環礁核実験の写真偵察機だった B-29 墜落事故現場/ピーク・ディストリクト・イギリス 2015 発売現像方式印画／1030 × 1300 mm	藤田嗣治の眼鏡 ― 日本出国を助けたシャーマンGHQ民政官に送った電報（「Between Visible and Invisible」シリーズより） 2015 セラチン・シルバー・プリント／1200 × 1200 mm	菊（「積雲」シリーズより） 2011 発売現像方式印画／830 × 650 mm

2 毛利 悠子 Yuko Mohri

日用品や機械で構成した立体物を環境に寄り添わせ、磁力や重力、光など、目に見えない力を感じ取るインスタレーションを制作している毛利は、駅の構内で見かける水漏れ現場に着目し、その対処方法を写真におさめたフィールドワーク・シリーズ「モレモレ東京」を 2009 年から発表しています。日用品を即興的に組み合わせると水漏れを食い止めようとする駅員たちのブリコラージュ（器用仕事）に「用の美」としての芸術的発想の原点を見る毛利は、本展のために同シリーズを発展させ、横浜にて新作に取り組みました。水漏れを対処する平面構成によって、私たちが目を向けてこなかった都市の相貌をユーモラスかつ批評的なまなざして捉えます。今後の活動として「THE BEGINNINGS (or Open-Ended)」展（ポットラック・ビルディング・ギャラリー）、「六本木クロッシング 2016」展（森美術館）に参加予定です。

モレモレ:与えられた落水 #1-3 2015 木材、傘、ホース、ペットボトル、ゴム手袋、バケツ、車輪、雑巾、スポンジ、ポンプ、アクリル樹脂など／各2725 × 1758 × 500 mm（×3）

3 岩崎 貴宏 Takahiro Iwasaki

工事現場などの見慣れた風景を日用品で再構成した作品や、歴史的な建築物を、緻密な立体作品として様々なスケールで展開し、私たちの世界を多角的に表現しています。本展では、黒澤明の映画『羅生門』に登場する半壊状態の羅生門をモチーフに、水溜りに映った虚像も合せて立体化させ、虚実が溶けあった新作を発表します。もう一方の髪の毛で作られた鉄塔群の作品は、映画の原作である芥川龍之介の小説『羅生門』に出てくる老婆と髪の毛のシーンを想起させます。それらは、戦乱や災害などにより荒廃した羅生門の世界と、戦後 70 年経ってもなお、くすぶる争いの影や、未曾有の災害で混迷を極める現代社会が交錯するようにも見えてきます。今後の展示として、現在展開中の、西武池袋本店にリニューアルオープンしたエルメスのウィンドウディスプレイを制作したほか、2016 年 1 月から川崎市民ミュージアムのコレクション展に出品予定です。

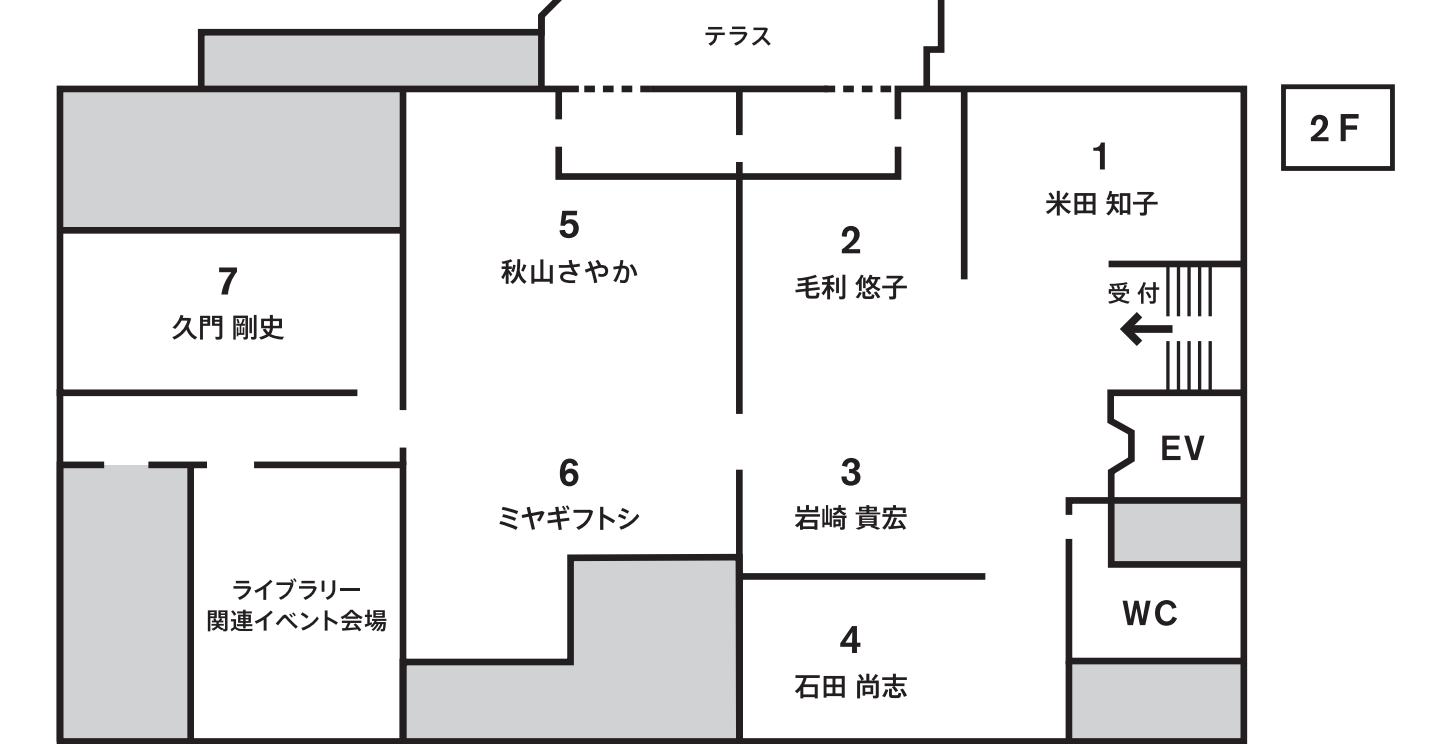
リフレクション・モデル（羅生門エフェクト） 2015 棺、シナベニア、墨汁、ワイヤー／1800 × 1850× 900 mm	アウト・オブ・ディスオーダー（70年草木は生えなかったか？） 2015 人毛／600 × 2400 × 2400 mm
--	---

4 石田 尚志 Takashi Ishida

画家および映像作家として活動すると同時に、パフォーマンスも行ってきた石田は、絵を描く身体（からだ）全体の動きに着目し、それをドローイング・アニメーションに展開することで、身体や時間の痕跡を表しています。本展の新作は、エドガー・アラン・ポーのいくつかの短編から構想を得て、石田がこれまでも繰り返し向き合ってきた「窓と壁」、そして「渦」や「反復」といったテーマをさらに探求しています。見ることで描くことを突き詰めた映像からは、躍動する絵画の線や、身体、時間の軌跡がダイナミックに浮かび上がります。
今後は、2015 年 11 月神奈川県立近代美術館鎌倉「鎌倉からはじまった。1951-2016 PART3」でのライブ上映や、「あいちトリエンナーレ 2016」への参加が決まっています。

正方形の窓 2015 HD video／6分30秒

※展示作品にはお手を触れないようお願いいたします
※ 部分の立ち入りはご遠慮ください



5 秋山さやか Sayaka Akiyama

さまざまな土地で生活し、あるき、その軌跡を 1 針 1 針縫い付け、「時間のあしあと」を探ってゆく作品を制作しています。本展の新作に向けて、秋山は二ヶ月半に渡り横浜に滞在し、BankART にて制作をおこないました。半透明の布で出来た部屋のような作品には、秋山があるいた関内、馬車道、BankART の地図がプリントされています。さまざまな色彩や形の糸、日常で見つけたものによって縫い込まれた「線」からは、秋山が過ごした土地での発見や日々のささやかな喜び、葛藤などの心理的な変化があらわれています。展示室の壁や窓には、秋山がつづった日記のような言葉が道のように描かれ、窓の外に広がる横浜の風景と溶け合い、一つの世界を紡ぎ出しています。今後の活動として、2016 年 9 月に開幕する国際展「さいたまトリエンナーレ 2016」への参加が決まっています。

浸食す 9.1 19 29 10.3 11.7 8 13 2015 横浜で出逢ったさまざまな物いろいろな糸、布、顔料／サイズ可変（中央作品：3500 × 3600 × 3600 mm）
--

6 ミヤギフトシ Futoshi Miyagi

自身の記憶や体験に向き合いながら、国籍や人種、アイデンティティといった主題について、写真や映像、オブジェ、テキストなど、多様な表現で作品を発表しています。新作の映像インスタレーションは、ミヤギが 2012 年より取り組んでいる、沖縄やセクシャルマイノリティーを扱ったりサーチ・プロジェクト「American Boyfriend」の連作となります。新作に向けて、ミヤギは沖縄とアメリカでリサーチやインタビューを行いました。核となる映像作品では、沖縄とアメリカで撮影した風景、物語のなかでヴァイオリン弾きのアメリカ兵と沖縄人ピアニストが演奏する曲とともに、二人が心を通わせる過程、沖縄とアメリカという場所が持つ歴史や複雑な関係性が語られます。今後の活動として、「他人の時間」展がシンガポール美術館（2015 年 11 月～2016 年 2 月）とクイーンズランド州立美術館 | 現代美術館（2016 年 6 月～9 月）に世界巡回するほか、「六本木クロッシング 2016」展（森美術館）があります。

雨だれについて 2015 シングルチャンネルビデオ（カラー、サウンド）7分25秒	シャコンヌ 二長調 2015 楽譜スタンド、紙にインク サイズ可変	南方からの17通のノート 2015 封筒、ハガキ、切手、デジタルプリント、ファウンドフォト、CD、紙にインク サイズ可変	マッチ箱のなか、兵士の写真 2015 デジタルCプリント 508 × 610 mm	ロマン派の音楽 2015 2チャンネルビデオ（カラー、サウンド）22分15秒
--	---	--	---	--

7 久門 剛史 Tsuyoshi Hisakado

音や光、立体をつかって、頭の片隅にある記憶の再現を空間全体で創り出しています。空間に足を踏み入れると、鑑賞者は時間の経過とともに、明滅する電球の光や、かすかに揺れるカーテンの動き、そして様々な音の響きに気付かされます。それは、どこかで体験したかのような光景でありながら、その記憶が自分自身のものなのか、誰かが語った記憶なのか、曖昧な感覚や時間となって追体験させられます。BankART がもつ建築的な要素や周辺の環境から生まれる偶然性と、あらかじめ設定された器械的な要素を融合させることで、久門は、普段私たちが見過ごしがちな場所の歴史や文脈、そこに残る時間や気配などに意識を傾ける場をつくっています。本展以降は、2016 年 3 月に京都での世界初演を皮切りに、世界各国での上演が予定されているチェルフィッチュ新作「部屋に流れる時間の旅」の舞台美術と音を担当するほか、「VOCA 展 2016」にノミネートされています。

Quantize #5 2015 サウンド、電球、アルミニウム、真鍮、木、ジョーゼット、紙、時計ムーブメント、シャープペンシルの芯、鏡、電池、他／6000 × 12000 × 5000 mm
